

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 湘南乃えん株式会社

研修事業の名称 湘南乃えん初任者研修通信コース

1 職務の理解（6 時間）					
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法			
①多様なサービスの理解	2 時間	《講義内容》 ・介護保険による居宅サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険による施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を理解する。			
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4 時間	《講義内容》 ・各種サービス内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。 ・ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを理解する。 《演習》 ・DVDを鑑賞後、グループディスカッションを行い、「介護職が現場で働く内容」をできる限り理解させる。 ◆備品：DVDプレーヤー、DVDモニター、DVD			
合計	6 時間				
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	4 時間	0 時間	4 時間	①	《通信》 ・介護を必要とする人が有する権利と何かを学ぶ。 ・介護に関する基本的な視点（ICF、QOL、ノーマライゼーション、自立支援、虐待防止・身体拘束禁止）について理解する。 ・利用者の権利を擁護するための制度（日常生活自立支援事業、成年後見制度、苦情解決の制度、個人情報保護法）の種類や内容について理解する。

②自立に向けた介護	5 時間	3 時間	2 時間	①	通信講習 ・介護における自立とは何かを学ぶ。 ・「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。 ・介護予防の考え方について理解する。 通学講習 《演習》 自立支援、介護予防の観点から、グループワークを通じ実際の援助計画を立ててみる。
合計	9 時間	3 時間	6 時間		

3 介護の基本（6 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性 と他職種との連携	1 時間	0 時間	1 時間	①	《通信》 ・介護環境の特徴（施設と在宅の違い、地域包括ケアの方向性など）を学ぶ。 ・介護の専門性について考え、専門職に求められるものが何かを学ぶ。 ・多職種連携の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。
②介護職の職業倫理	1 時間	0 時間	1 時間	①	《通信》 ・介護職が持つべき職業倫理を学ぶ。 ・プライバシーの保護について学ぶ。 ・日本介護福祉会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2 時間	2 時間	0 時間		《通学講義》 ・利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントに視点を学ぶ。 ・利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ。 ・介護における安全の確保、事故予防・安全対策、感染対策 《演習》 事例を挙げ、事故予防策、感染対策についてグループワークを通じ検討していく。
④介護職の安全	2 時間	2 時間	0 時間		《通学講義》 ・介護の特徴を踏まえて、介護職自身の健康管理の必要性を学ぶ。 ・介護職に起こりやすいところとからだの病気や障害について学ぶ。 ・介護職自身の健康管理の方法（病気や障害の予防と対策）について学ぶ。 《演習》 腰痛予防体操、手洗いの仕方
合計	6 時間	4 時間	2 時間		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	3時間	0時間	3時間	②	《通信》 ・介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ。 ・介護保険制度の基本的なしくみを理解する。 ・介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ。 ・保険給付の対象者、保険給付までの流れ（要介護認定の手順）、保険給付の種類と内容（介護給付と予防給付）、地域支援事業について学ぶ。
②医療との連携とリハビリテーション（1） （医行為と介護）	1.5時間	1.5時間	0時間		《通学講義》 ・医行為について理解する。 ・在宅支援における介護職と医行為、及び看護職の役割・連携について理解する。 ・施設における介護職と医行為、及び看護職の役割・連携について理解する。 ・訪問看護について理解する。 《演習》医療職種との連携について グループワーク
②医療との連携とリハビリテーション（2） （リハビリテーション職種との連携）	1.5時間	1.5時間	0時間		《通学講義》 ・リハビリテーションの理念と考え方、介護との連携について理解する。 《演習》リハビリ職種との連携について グループワーク
③障害者総合支援制度およびその他制度	3時間	0時間	3時間	②	《通信》 ・障害者福祉制度における障害の概念について、その歩みを踏まえて学ぶ。 ・障害者総合支援制度の基本的なしくみについて理解する。 ・個人の権利を守るその他の制度について学ぶ（個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業）
合計	9時間	3時間	6時間		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	3時間	2時間	1時間	②	《通学講義》 ・対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。 ・介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する。 ・事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する。 《演習》 ロールプレイにより、介護における言語コミュニケーションや非言語コミュニケーションを行ってみる。また、利用者や家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解することで介護職として持つべき視点を学ぶ。 《通信》 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき（とるべきでない）行動例を理解する。

②介護におけるチームのコミュニケーション	3 時間	2 時間	1 時間	②	《通学講義》 ・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ。 ・チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ。 ・会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ。 《演習》 ロールプレイにより、介護における言語コミュニケーションや非言語コミュニケーションを行ってみる。また、利用者や家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解することで介護職として持つべき視点を学ぶ。 《通信》 人と人との関係における意思疎通のことで、言葉、文字、身振りなどを活用して情報を相互に伝達することを学ぶ。介護職員として、利用者や家族の思いに寄り添い、不安を緩和(かんわ)することや希望を見出すこと、さらには自信を引き出すといったところの支援を可能としていくのもコミュニケーションだということを理解する。
合計	6 時間	3 時間	3 時間		

6 老化の理解（6 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 老年期の発達と老化に伴う心身 の変化の特徴	3 時間	3 時間	0 時間		《通学講義》 ・老化が及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。 ・老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する。 ・多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。 《演習》 老化に伴う心身の変化に対して、家族や支援する人の関わり方についてディスカッションする。
② 高齢者と健康	3 時間	0 時間	3 時間	②	《通信》 ・高齢者の多くに見られる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について理解する。 ・高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する。
合計	6 時間	3 時間	3 時間		

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く環境	1時間	0時間	1時間	③	《通信》 ・「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 ・問題視するのではなく、人として接することを理解する。 ・できないことではなく、できることをみて支援することを理解する。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	0時間	2時間	③	《通信》 ・老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する。 ・認知症に類似した症状をもつ疾病について学ぶ。 ・アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状について学ぶ。 ・健康管理（脱水、便秘、低栄養、低運動の防止、口腔ケア）、認知症の治療、薬物療法、予防対策について学ぶ。
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間	2時間	0時間		《通学講義》 ・認知症の症状（中核症状と行動・心理症状）を知ることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ。 ・認知症の人の行動と環境との関係について理解する。 ・病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する。 《演習》 グループに分かれ、「認知症の利用者との対応」についてロールプレイを行う。
④家族への支援	1時間	1時間	0時間		《通学講義》 ・家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ。 ・家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ。 《演習》 家族との関わり方をロールプレイングで演習する。
合計	6時間	3時間	3時間		

8 障害の理解（3時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	1 時間	0 時間	1 時間	③	《通信》 ・「障害とはどういうものか」という考え方を学ぶ。 ・国際生活機能分類（ICF）に基づきながら、「障害」の概念について理解する。 ・障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン）について理解する。
②障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	③	《通学講義》 ・障害の種類や特徴（身体障害＝視覚障害、聴覚障害、言語障害、肢体不自由、内部障害・知的障害・精神障害＝統合失調症、気分障害、アルコール依存症など・高次脳機能障害、発達障害）を理解する。 ・障害に伴う心理的影響、障害の受容を理解する。 ・障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ。 《通信》 障害の概念と国際生活機能分類（ICF）、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。
③家族の心理、かかわり支援の理解	1 時間	1 時間	0 時間		《通学講義》 ・家族支援は、家族介護の肩代わり支援だけではないことを学ぶ。 ・我が国に求められるレスパイトサービスの課題を学ぶ。 《演習》 家族への関わり方をグループで話し合う。
合計	3 時間	2 時間	1 時間		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（8 1 時間）						
基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	4 時間	0 時間	4 時間	③	《通信》 ・理論に基づく「介護」の概念・定義（ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除）について理解する。 ・法的根拠に基づく「介護」について理解する。
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4 時間	0 時間	4 時間	③	《通信》 ・学習と記憶に関する基礎的な知識を理解する。 ・感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する。 ・自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、心の持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響について理解する。
生活支援技術の講義・演習	③介護に関するからだのしくみの基礎知識	4 時間	1 時間	3 時間	③	《通信》 ・骨や関節など、からだの動きのメカニズムを理解する。 ・神経の種類と、そのはたらきを理解する。 ・眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官のはたらきを理解する。 《通学講義》 《演習》 基本的な健康チェック、バイタルサインの取り方を演習する。
	④生活と家事	3 時間	3 時間	0 時間		《通学講義》 ・生活を継続していくための家事の重要性を学ぶ。 ・家事援助（調理、洗濯、掃除などの援助）は利用者にとってどのような意味があるのかを理解する。 ・家事援助とは何かについて具体的に理解する。 《演習》 利用者の日常生活の維持・向上を目指し、利用者が望む生活を実現すること、利用者の自立支援という目的に向かって行う家事援助のポイントなどをグループディスカッションする。

⑤快適な居住環境整備と介護	3 時間	2 時間	1 時間	③	《通学講義》 ・安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何、かについて学ぶ。 ・住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ。 ・高齢者や障害のある人が生活するなかで、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ。 《演習》 利用者の身体状況に合わせた環境整備のポイントについて、福祉用具の活用も視野に入れながらグループディスカッションする。 《通信》 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法を理解する。
⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	0 時間		《通学講義》 ・整容の必要性和整容に関連したところとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術を身につける。 ・口腔ケアの定義、目的、効果について理解する。 ・誤嚥性肺炎の予防について学ぶ。 《演習》 グループに分かれ実技演習を行う ①衣類の着脱についての基本的手順（上着、ズボン） ②ベッド上での衣類の着脱 ③顔の拭き方 ④爪の切り方 ⑤口腔ケア（ブラッシング法、義歯の扱い方）
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	0 時間		《通学講義》 ・移動・移乗の必要性和、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける。 ・利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する。 《演習》 グループに分かれ実技演習を行う ①ボディメカニクスを活用した動きの基本 ②利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ③利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用 ④自立支援 ⑤重心・重力の働きの理解 ⑥ボディメカニクスの基本原理 ⑦移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗） ⑧移動介助（車いす・歩行器・つえ等） ⑨褥瘡予防 ⑩体位交換 ⑪視覚障害者歩行介助の演習 ⑫肢体不自由者の杖歩行介助

⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	0 時間	《通学講義内容》 ・食事の必要性と、食事に関連するところとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、食事の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が食事に及ぼす影響にかいて理解する。 《演習》 ①食事介助と姿勢 ②食事に関した福祉用具の活用と介助方法
⑨入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	0 時間	《通学講義内容》 ・入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連するところとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活かし、楽しい入浴の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する。 《演習》 ①羞恥心や遠慮への配慮 ②体調の確認 ③全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方） ④目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 ⑤陰部清浄（臥床状態での方法） ⑥全身浴、部分浴（足浴、手浴）洗髪の仕方
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	0 時間	《通学講義内容》 ・排泄の必要性と、排泄に関連するところとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し気持ちのよい排泄の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する。 《演習》 ①プライバシーの確保 ②一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ③便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ） ④ポータブルトイレを使用したトイレ介助の具体的方法 ⑤差し込み便器、尿器を使用した介助の具体的方法 ⑥紙オムツを用いた介助の具体的方法

	⑪睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	0 時間	《通学講義内容》 ・睡眠の必要性と、睡眠に関するところとからだのしくみを理解する。 ・心地よい安眠を支援するための技術を身につける。 ・心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する。 《演習》 ①ベッドメイキング ②安眠のための介護の工夫 ③環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室） ④安楽な姿勢 ⑤褥瘡予防
	⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	3 時間	3 時間	0 時間	《通学講義内容》 ・終末期のとらえ方を学ぶ。 ・終末期から死までの心身機能の変化について理解し、状況に合わせた対応を学ぶ。 ・死に直面したときの人の心理状況について理解し、こころの変化の受け止め方を学ぶ。 《演習》 終末期の利用者とそのご家族への対応方法と介護職の果たす役割についてグループディスカッションする。
生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解	5 時間	《通学講義内容》 ・介護過程の目的と意義について理解する。 ・介護過程の展開プロセスについて理解する。 ・チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について理解する。 《演習》 個別援助計画書の作成演習をグループワークによって行う。		
	⑭総合生活支援技術演習	5 時間	《通学講義内容》 ・事例を通じて、利用者のこころとからだの力が発揮できない要因を分析する。 ・事例を通じて、利用者本人にとって適切な支援技術は何かを検討する。 ・事例を通じて、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点について理解する。 《演習》 これまで学んだ支援技術を活用して実際に支援を行い、知識や技術が身にあるかの確認を行う。 ①事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1 事例 2 時間程度で上のサイクルを実施する） ②事例は、片まひ、認知症の 2 事例を実施。		
実習		1 4 時間	《内容》 ・通所介護実習（2 つとも選ぶことは不可）、小規模多機能型居宅介護実習、認知症対応型共同生活介護実習より 2 つ選択（各 6 時間×2 つ）と訪問介護 2 時間の計 1 4 時間を実習とする。1 4 時間のうち 5 時間は追加カリキュラムとする。 ・介護現場の役割や業務の実際を理解する。		
合計		8 1 時間			

10 振り返り（4時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	2時間	《通学講義内容》 ・研修を通して学んだことを振り返り、根拠に基づく介護と介護職に求められているものは何かを確認する。 《演習》 各自で学んだこと、疑問点などを発表し、ディスカッションする。
②就業への備えと研修終了後における継続的な研修	2時間	《通学講義内容》 ・今後の介護人財キャリアパスを明確にし、研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできる事例を紹介する。
合計	4時間	
全カリキュラム合計時間	136時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること